

1 単元名 Program3 タレントショーを開こう

2 単元設定の背景

教材観

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語編では、話すこと[発表]について、「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。」とある。本単元は、言語材料として助動詞 can が扱われており、自分のできることや得意なことについて発表をするのに適している。また、発表の際には、ただ、既習事項を活用すればよいというだけでなく、相手意識をもち、より分かりやすいものになるよう、文の順番や内容の一貫性に注意する必要がある。

このように、相手意識をもって事実や考えを伝える活動を通して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて表現する力を養うことに適した教材である。

生徒観

本学年の生徒は、授業には意欲的に参加し、授業中のコミュニケーション活動には積極的に取り組む。5月に行ったアンケートでは、相互評価について、多くの生徒が「ためになった」「楽しかった」と回答しており、「また相互評価をやりたいか」という質問に対して多くの生徒が肯定的に回答した。

前単元までに、be 動詞と一般動詞について学習しており、それらを用いて名前や出身地、普段することなど、みんなに知ってもらいたいことについてグループで発表した。発表した内容を記述したところ、be 動詞や一般動詞は正しく使えている生徒がほとんどであったが、文と文のつながりがなかったり、情報を羅列するだけになったりしている生徒も多くおり、文の順番や内容の一貫性について課題があると考えられる。

集団観

7年生の学年目標「自己の思いを伝え合い、自他を尊重し、安心して学べる集団を育てる」を踏まえ、自分の意見を英語で積極的に伝え合う集団をめざす。4月から人との関わり方に関するトラブルが発生しており、コミュニケーション不足が原因のものが多い。また、4月に行った QU の結果を受けて、自分の意見を伝え合う場面を多く設定する。その中で、相互評価を実施し、自他のよさを認め合い、高め合う手立てを講じていく。また、ペアトークなどを通して、話を聞く態度の指導を行い、相手に関心をもち、学級や学年でまとまりのある集団をめざす。

指導観

本単元では、自分の思いを安心して伝えることに課題があることから、相互評価を定期的に行う。相互評価では、よい点と改善すべき点を伝え合い、相手のよい部分を自分の発表に生かしたり、アドバイスをもとに自分の発表の質を高めたりしていく。この過程で、なぜ相手がこのような発表をしたのかを考え、共感したり、相手の意見を受容したりできると考えられる。また、意見をもとに粘り強く内容を修正・再構成することで、レジリエンスを高めることができると考えられる。評価規準は生徒に「どのような発表が7年生としてふさわしいか」を尋ねてその意見をもとに具体を設定する。

授業では、実際に自己紹介をしてそれに対する他者からの意見やアドバイスを受ける活動を中心とする。その中で、どうすれば伝わりやすいものになるのかを考えることを通して、相手の立場に立って考えることができ、外国語によるコミュニケーションの見方・考え方を働かせ、自分のことを表現する資質・能力を育成できると考えられる。

3 単元の目標及び計画(全12時間)

■単元の目標

助動詞 can を用いた文の形・意味・用法を理解し、自分ができることやできないことについて伝えることができるようにする。また、お互いを尊重し安心して学べる集団になるために、自分自身のできることや得意なことについて述べている文章を読んだり、伝えたい話題に対する事実や自分の考えを整理したりして、簡単な語句を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

■単元の計画

第1次 Think1 (助動詞 can を用いた肯定文・否定文) 2時間

第2次 Think2 (助動詞 can を用いた疑問文) 2時間

第3次 Interact (助動詞 can を用いて説明をする) 1時間

第4次 Our Project (既習事項を用いて自己紹介をする) 7時間(本時2/7)

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
助動詞 can を用いた文の構造を理解している。 自分のできることや得意なことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話す技能を身に着けている。	クラスメイトに自分について知ってもらい、もっと話してみたいと思ってもらえるように、自分のできることや得意なことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて話している。	クラスメイトに自分について知ってもらい、もっと話してみたいと思ってもらえるように、自分のできることや得意なことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて話そうとしている。

5 本時の学習

■目標 自分のできることや得意なことについて、文の順番や内容などに注意して、相手に分かりやすく話すことができる。また、ペアやグループでの相互評価をもとに、自己紹介の文章を練り上げることができる。

■「受容と共感を促す手立て」

子供の受容と共感を促すために、相手に伝わるように意識しながら自己紹介を行い、その上で相互評価を行う場面では、相手の発表のよさを受け入れたり、意見を素直に受け入れたりし、互いに高めあえるような手立てを講じる。

■学習過程 ※ (全) (小) (個) : 学習形態 (全 : 全体の場合 小 : 小集団 個 : 個人) ㊟ : 留意点 ㊠ : 評価の観点 (方法)

学習事項	生徒の活動	教師の働きかけとねらい	集団
1. 学習課題への接近	(1) 教師の自己紹介を聞く。 <予想される生徒の発言> 難しい英語ばかりで内容がよくわからない、もっとゆっくり話してほしい、など。	(1) あえて速いスピードで難しい単語を使用して自己紹介をすることで、相手意識をもった話し方や内容でないと、自己紹介の意味がないことに気付かせる。	(全) 全体で分からないことや問題点などを共有することで、自己紹介の際に何が大切なのかに気付くことができるようにする。
2. 学習課題の設定	(2) 本時の学習課題を設定する。 相手意識をもって自己紹介をしよう。	(2) 教師の自己紹介での気付きや、自分がこれまで行ってきた自己紹介などから、相手意識をもつとはどういうことなのか、具体的にどのようにしたらよいのかを考えさせ、実践できるようにする。	(全) 全員で確認し、共通の目標に向かって活動できるようにする。
3. 学習課題の追求 (自身の学習活動)	(3) 相手意識をもって自己紹介ができるように準備をする。 ・アイディアを書き出す。 ・伝えたいことを精選し、マッピングをする。 ・必要な単語や表現を調べる。	(3) メモなどを見て全員が意欲的に自己紹介できるように準備をさせる。 ・情報を整理するように声掛けをする。 ・なかなか書くことができない生徒には、これまでの Grow up シートやワークシートを見て、使えそうな表現などを用いて簡単なメモを作るように声掛けをする。	(個) これまでの学習や経験から、個人で考えをまとめていく。
(ペア学習)	(4) ペアで自己紹介をし、相互評価をする。 ・相互評価後は評価をもとに自己紹介をブラッシュアップする。 ・ブラッシュアップができたらペアを変えて自己紹介をし、相互評価をすることを繰り返す。 ・評価の観点 : Verbal Delivery、Non-verbal Delivery、Contents	(4) よい点や改善すべき点などをお互いの学習のためにきちんと伝えられるような雰囲気づくりに留意する。 評文の順番や内容などに注意して、分かりやすく自己紹介をしている。(発言・ワークシート)	(小) ペアで行うことで安心して発表をしたり、相手の発表を集中して聞いたりすることができるようにする。
4. 本時のまとめと次時への発展	(5) 本時の振り返りを行い、今後の学習へつなげる。 <予想される生徒の発言> 話す順番や内容、話し方を工夫すれば、より相手に伝わりやすいものになる。	(5) 自分の学びを深めることができたかなどの、振り返りの視点をもたせることで、次時の学習へのつながりを意識させる。 ・自分の自己紹介の変化やクラスメイトの自己紹介の良かった点などをまとめさせる。	(個) 自身の学習について深く考えることで、今後どのようなことを学習していきたいか、次の単元へとつなげられるようにする。